

平成 30 年度 目標設定

神奈川県立住吉高等学校

| | 視点 | 4 年間の目標 (平成 28 年度策定) | 1 年間の目標 | 取 組 の 内 容 | |
|---|--------------|--|--|---|--|
| | | | | 具体的な方策 | 評価の観点 |
| 1 | 教育課程 学習指導 | <p>①生徒の進路選択に適合する教育課程を編成し、組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>②論理的思考力や他者と協働した問題解決能力を身につけさせる授業を実践する。</p> | <p>①生徒が主体的に生き生きと学ぶことができるような授業を行う。</p> <p>②すべての教科において、プログラミング教育を推進する。</p> | <p>①55分授業において、生徒自身が学ぶことの意義や内容を認識したり、振り返りを行うことによって、学習効果を高める。 ①同僚性を発揮して、授業力の向上を図る。</p> <p>②すべての教科において、プログラミング的思考力を育成する。</p> | <p>①「生徒による授業評価」における意欲的な取り組み指数 3.5 ①授業力を向上させるために、組織的に取り組めたか。</p> <p>②すべての教科におけるプログラミング教育を通して、論理的思考力や他者との協働による問題解決能力を育成できたか。</p> |
| 2 | 生徒指導・支援 | <p>①生徒一人ひとりの個に応じた支援体制の充実を図る。</p> <p>②生徒が自己肯定感を向上させ、コミュニケーション能力を身につけられる指導を実践する。</p> | <p>①生徒一人ひとりの状況を把握し、必要な支援を行う。</p> <p>②生徒が様々な人と関わることで、社会性を身につけ、自己肯定感が向上するよう支援する。</p> | <p>①生徒一人ひとりの状況を把握し、学年会、生徒情報交換会などを活用して情報の共有を図るとともに、必要に応じて教育相談コーディネーターを中心に、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーや外部機関との連携を図る。</p> <p>②部活動、生徒会活動におけるボランティア活動に加え、一般生徒のボランティア活動への意識向上を図り、ボランティア活動参加の機会、参加生徒数を増やす。</p> | <p>①生徒の状況を把握し、必要に応じてケース会議等を速やかに実施し、外部機関等とも連携できたか。</p> <p>②ボランティア活動への参加生徒数。</p> |
| 3 | 進路指導・支援 | <p>生徒が自ら進路目標を設定し、自主的に準備に取り組めるよう進路指導の充実を図る。</p> | <p>生徒が主体的に自らの進路選択をし、それを実現できるような指導・支援を充実させる。</p> | <p>高大接続改革を視野に入れ、生徒が主体的に進路選択し、それを実現できるよう、適切な情報提供と個別指導・ガイダンス等を行う。</p> | <p>「魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケート」におけるキャリア教育の成果満足群 80%</p> |

| | 視点 | 4年間の目標 (平成28年度策定) | 1年間の目標 | 取組の内容 | |
|---|--------------|---|---|--|---|
| | | | | 具体的な方策 | 評価の観点 |
| 4 | 地域等との協働 | 地域との協働を推進し、地域に信頼される学校づくりを進める。 | <p>①平成31年度のコミュニティスクール設置を視野に、地域との交流の場を拡大する。</p> <p>②本校への理解を深めてもらうために、本校の教育活動などを積極的に広報する。</p> | <p>①地域のイベントに積極的に参加するとともに、交流の機会を増やす。</p> <p>②ウェブページや学校案内パンフレットなどの広報手段を拡大、充実させる。</p> | <p>①地域との交流活動に参加した生徒数。</p> <p>②広報活動を拡大、充実できたか。</p> |
| 5 | 学校管理 学校運営 | すべての職員が教育環境の変化に迅速に対応し、前向きに課題に取り組む学校文化を形成する。 | 高校教育を取り巻く様々な課題に協働して対処していく体制をつくる。 | 課題解決のために必要な情報を得たり、協働性を養うための研修等を実施する。 | 課題解決のために有効な研修を実施できたか。 |